

スリランカの文化をお知らせする

ランカ
Lanka
タイムズ
Times



アーユボーワン。(スリランカの言葉で「こんにちは」)

スリランカで人気のスポーツと言えばクリケット。一見すると野球に似た競技で、日本ではあまりなじみがありませんが、競技人口はサッカーに次いで世界2位とも言われています。

クリケットはお昼休憩やティータイムをはさんで、1試合6～7時間も対戦をしているそうです。



ワールドカップも開催されていて、スリランカは優勝したこともあるそうですよ。

日本でも、U 19 チームが 2020 年の U 19 ワールドカップ本選に初出場を果たしました。また、元プロ野球選手がクリケット選手に転向して、日本代表として活躍しています。

いつか日本でもクリケットが人気競技になるかもしれませんね。

☎ 東京オリンピック・
パラリンピック戦略推進室
☎0475(80)1633

文化会館催し物

☎ 成東文化会館 ☎0475(82)5222
さんぶの森文化ホール ☎0475(80)9700

公演開催中止のお知らせ

新型コロナウイルスの日本国内での感染拡大の状況をふまえて、お客様ならびにアーティスト、全ての関係者の健康と安全を最優先とし、開催を予定しておりました以下の公演を中止とさせていただきます。

公演を楽しみにお待ちいただいておりますお客様にはご迷惑をお掛けいたしますが、何卒ご理解賜りますようお願い申し上げます。

7月12日(日) 第23回のぎくプラザ吹奏楽団定期演奏会

7月17日(金) サロンコンサート vol.215 西山瞳トリオ with
市原ひかりスペシャル・ジャズ・ライブ2020

7月26日(日) 音響ワークショップ中級編

第23回ピアノフェスティバル

日 時 8月22日(土) 開演14:00

場 所 さんぶの森文化ホール

入場料 無料 全席自由

内 容 毎年恒例、ピアノ好きの皆さんの晴れ舞台。ホールでピアノの発表をしてみたい、日頃の練習の成果を発表したい、そんな皆さんの発表の場です。

夏のこども映画会「魔女の宅急便」

日 時 8月23日(日) 10:00～/14:00～

場 所 さんぶの森文化ホール

入場料 小学生以下無料 前売500円(当日700円)
全席自由

(1989年/スタジオジブリ 宮崎駿監督)



作家や詩人たちのゆかりの場所に立てられている文学碑。その土地に生まれた、住まいを構えた、あるいは作品の舞台になったなど、文学者の足跡を知ることができる貴重な文化遺産といってもよいかもしれません。

明治～大正期を代表する歌人・小説家の伊藤左千夫（1864～1913）は上総国武射郡殿台村（現在の山武市殿台）に生まれました。左千夫の文学碑は市内の公園や街角でいくつも見ることができ、さらに全国三十数カ所に残されているといわれます。ここでは、代表的な左千夫の碑を訪ねてみました。

伊藤左千夫記念公園

政夫と民子の像
歌碑（野菊の花）
アララギ派八歌人の碑

山武市役所のはす向かいにある伊藤左千夫記念公園は、1991年（平成3年）に完成しました。左千夫が特に好きだったという椎の木が枝を伸ばしています。

園内で特に目を引くのが「政夫と民子の像」でしょう。これは、左千夫の第一作となる小説『野菊の墓』の一場面で、初版本の挿絵を基に制作されました。民子が手にしているのは野菊です。



野菊の花を詠んだ5首などが刻まれた「左千夫の歌碑」（写真：右）。左千夫と親交の深かったアララギ派の八歌人（正岡子規、斎藤茂吉、長塚節、古泉千樫ら）の歌碑（写真・左）が立ち並ぶ中には、左千夫が死の半年前1913年（大正2年）故郷に帰って詠んだ「九十九里の浜の遠音や降り立ては寒き庭にも梅咲きにけり」があります。



伊藤左千夫生家 歌碑（牛飼の歌）

左千夫生家の庭先にあるのが、有名な「牛飼の歌」の歌碑「牛飼が歌よむ時に世の中の新しい歌おほひに起る」です。1885年（明治18年）上京した左千夫が牛乳製造業を始めた30代初めに詠んだ歌といわれています。

左千夫の50回忌を前に、本須賀海岸や浪切不動の歌碑とともに建立されました。



本須賀海岸 歌碑（天地の四方の）

海岸沿いの駐車場から砂浜に向かったところに歌碑があります。

左千夫が故郷の九十九里の海を詠んだ歌（九十九里絶唱）はいくつかあります。中でも新境地を開いたものとして有名な一首が歌碑



●写真提供・長勝寺

1906年(明治39年)3月、左千夫は母の三回忌で帰郷します。そのときに鉱泉旅館・成東館(浪

浪切不動院 長勝寺 歌碑(石塚の岩辺の桜)

の「天地の四方の寄合を垣にせる九十九里の浜に玉拾ひ居り」です。1909年(明治42年)信州から訪れた友人に海を見せようと、九十九里の浜で遊んだときに詠んだ歌といえます。



切不動院の隣にあった)での埴岡短歌会で詠まれた一首が碑に刻まれています。

碑の「石塚の岩辺の桜ひた枝に苔むすなべに振りさびにけり」は、桜の名所である境内を詠んだものです。

成東駅前 歌碑(久々に家帰り見て)



浪切不動院の「石塚の岩辺の桜」の歌と同じ日の埴岡短歌会で詠まれた歌が碑になっています。碑に刻まれた「久々に家帰り見て故さとの今見る目には岡も河もよし」は、左千夫から短歌の指導を受けた歌人・土屋文明の筆になるものです。

千葉県松戸市・西蓮寺 野菊の墓文学碑

左千夫の『野菊の墓』の舞台となったのは、江戸川の渡しのある松戸市の矢切地区。碑は、矢切の渡しを見下ろす西蓮寺境内にあります。土屋文明の筆により、『野菊の墓』の一節「僕の家といふは、矢切の渡しを東へわたり、小高い岡の上でやはり矢切村といっているところ……」が刻まれています。



●写真提供・松戸市

東京都・錦糸町駅前 歌碑(よき日には)

錦糸町駅南口ロータリーの一角に左千夫の歌碑が立っています。ここは、左千夫が乳牛三頭と牧舎を建てて牛乳製造業に乗り出した地です。碑の歌は、1908年(明



治41年)10月「阿羅々木」第1巻第1號に掲載された「よき日には庭にゆさぶり雨の日には家とよもして児等が遊ぶも」です。

長野県・富士見公園 歌碑(寂志左乃)

左千夫は八ヶ岳の山麓、長野県富士見町の景観が気に入りに、設計したのが富士見公園です。左千夫の死後、地元の人たちが偲んで立てた歌碑「寂志左乃極尔堪弓天地丹寄寸留命乎都久都九止思布」が残されています。



●碑の読みは「さびしさのきわみにたえてあめつちによするいのちをつくづくとおもふ」。写真提供・富士見町



健康やかに育て 我が家のアイドル



ぬかが ひなた
額賀 陽大くん
R元.7.7生

ニコニコの笑顔で周りの人を太陽のように明るく出来るよう元気に成長してください！
(成東)



みなと
小川 湊士くん
R2.1.3生

結婚して九年目、やっと私達の元に来てくれた湊士君。あっという間に月日が過ぎ七月三日で六ヶ月。これからも元気に育ってね。楽しい事いっぱいあるよ！
(蓮沼ハ)



令和2年7月1日発行 編集・発行／山武市市民自治支援課

〒289-1392 山武市殿台296
☎0475 (80) 0152 (市民広報係)

ホームページアドレス <http://www.city.sammu.lg.jp/>
メールアドレス katsudoshien@city.sammu.lg.jp





UD FONT
by MORISAWA

みやすいユニバーサルデザイン
フォントを採用しています。



PRINTED WITH
SOY INK

環境に配慮した「大豆インク」
を使用しています。

表紙の写真 ▶ 暑い季節がやってきましたね。キンキンに冷えたスイカの写真で少しでも涼を感じていただければ……うれしいです。
(k)